

文学の里

その4 小国町



小国 —高浜虚子—

昭和27年11月小国にやってきた虚子は3日滞在、翌年5月小説「小国」が発表された。これは小説と呼ぶよりも、虚子をめぐる師弟愛がうかがえる写生文、この中で虚子は小国地方独特の「芋水車」に興味をひかれている。

「……そこに芋水車がかかっていて、盛んに水を叩いて廻っていた。その芋水車の中には芋が入っていた。水車が回るに従ってその芋の皮がとれていくのであった」

わたしの郷土

荒尾市立中央小学校 六年 村里圭一

多くの住んでいる荒尾は、熊本県の北のはし、福岡県の大牟田市とは、道一つへだてた所にある市です。人口は、およそ六万・県下第三の都市です。

目の前には、有明海を通して雲仙岳が望まれ、後には、小岱山の県立公園をひかえ、海岸ぞいには、三池の石炭を中心とした重工業が、発達しています。

昔は、荒尾駅付近に、住宅が、密集していたそうです。最近では、あちらこちらの山が切り開かれ、荒尾や大牟田市の工場や、長洲の日立造船所等につとめる人達の、住宅団地が出来ています。これらの家々が、荒尾名物の裂畑の、向こうに見える風景は、絵に、えがきたいくらいです。

荒尾市の中央には運動公園がありますが、これは、県下でも指折りの施設ではないでしょうか。体育館やプールを中心に各種の運動場や競技場がならんでいます。

毎年、県下の中学生の水泳大会が、このプールで、開催されます。日曜毎に、色々な体育行事があり、皆元気に活動しています。

しかし、海に面した荒尾市で海水浴ができないのは、残念です。何年か前は、立派な海水浴場があり、夏は、とっても、にぎわっていたそうです。

運動公園の北側には、「グリーンランド」という遊園地があり、この付近一帯は、とっても健康的な行楽地になっています。今春には「九州こども博」が開かれるそうですが、その時には、九州各地はもちろん、本州からの見学者も多いと思います。

こうして、多くの郷土、荒尾市は、開発が進められ、新産業都市として、期待されています。

荒尾市には、「荒尾市民憲章」というものがあります。これには、よりよい荒尾市を造るために、荒尾市民が、力を合わせて、守っていくことが、五つかかかっています。荒尾市民は、この目標に向かって、一生けん命努力しています。